



# 全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例 (各都道府県H30第1回会議資料より厳選版)

関東地方整備局  
関東技術事務所

※ この資料の詳細版は『関東維持管理技術センター・ホームページ』の  
「平成30年度第2回会議」〔下記のURL〕をご覧ください

<http://www.ktr.mlit.go.jp/ijikanri/index007.html>

# 全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例

(平成28年度～平成30年度第1回道路メンテナンス会議資料等より抜粋)



関東地方整備局  
関東技術事務所

項目	No.	取り組み内容	実施主体	資料番号	
1 技術力向上・点検促進の取り組み	点検	1	市町村が管理する橋梁を対象とした <b>橋梁点検講習会</b> を県内複数箇所で開催した結果、参加者が増加した。	埼玉県道路メンテナンス会議	
	2	橋梁点検を予定している8市町村を対象に、15m未満の <b>小規模橋梁</b> を用いて <b>直轄職員と地公体職員による合同点検</b> を実施することで、少人数での丁寧な実習となった。	千葉県道路メンテナンス会議 (野田市、鎌ヶ谷市、栄町、富里市、山武市、大網白里町、長生村、御宿町)		
	3	県が主導して <b>市町村と連携した直営点検</b> を実施。山形村は直営点検導入にあたり隣接する塩尻市の直営点検に同行。筑北村は技術職員ゼロのでも直営点検を実施できる可能性を確認した。	長野県道路メンテナンス会議 (山形村と塩尻市、筑北村)		
	4	<b>自治体職員が講師</b> になり点検講習会と補修設計に関する勉強会を実施することで、自治体職員の技術力向上を図った。	島根県道路メンテナンス会議		
	診断	5	市町村職員を対象に <b>直轄橋梁診断判定会議の傍聴会</b> を開催し、国の取り組みを実体験することで、診断判定のポイントが理解できた。	埼玉県道路メンテナンス会議	
	補修	6	<b>建設会社、コンサルタント、発注者の技術者が合同で橋梁補修に関する意見交換会</b> を実施することで、補修方法等について共通認識が図れた。	秋田県道路メンテナンス会議	
	アドバイス	7	道路施設の点検や保全関係の技術的課題に係る自治体からの疑問や相談に対応する <b>アドバイザーチームとして、県内道路メンテナンス支援団</b> を設置。(案) 直接現地や役場に出向いて、市町村への技術的助言、支援を行っていきます。	青森・岩手・宮城 秋田・山形・福島 道路メンテナンス会議	資料①
	8	地公体管理施設の技術的課題に対して、整備局、技術事務所、コンサルタント協会、橋梁調査会と協力して対応する <b>技術相談会</b> を開催し、地公体が有する技術的課題の意見交換を図った。	滋賀県道路メンテナンス会議		
	9	学識経験者、関係団体で構成する <b>橋梁健全度審査会議</b> を試行。受発注者双方が診断根拠をプレゼン後、審査員が点検結果の妥当性を評価することで、診断結果のクロスチェックとして機能している。	新潟県道路メンテナンス会議 (新潟市)		
	10	市町村が希望する橋梁の点検診断プロセスと点検診断結果について、メンテ事務局が <b>点検診断のアドバイス</b> を行い、点検診断の質向上を図る。	埼玉県道路メンテナンス会議		
	11	市町村が管理する道路施設の技術課題等について、気軽に相談できる <b>市町村技術支援窓口</b> (政令市を除く市町村向け)を設置することで、市町村の技術力不足を支援できる。	神奈川県道路メンテナンス会議		
	12	<b>道路橋及びコンクリート構造物の点検・診断等アドバイザー制度</b> とは、橋梁調査会、コンクリート診断士会と建設技術センターが一括契約することで、個別に建設技術センターと契約した県、市町村の要請に応じてアドバイザーの派遣が可能となり、診断が困難な場合などにアドバイスを受けることができる制度。	島根県道路メンテナンス会議		
	13	県、市町村の診断(案)に対して学識経験者の意見を聴取する <b>山形県道路橋合同診断会議(合同意見聴取)</b> の開催。県内外の企業も参加することで診断結果に対する共通認識が図れた。	山形県道路メンテナンス会議		
	14	各県のメンテナンス会議では、 <b>構造物保全技術支援(助言)</b> として、地公体に対する技術支援を明確にしている。	中国地整管内道路メンテナンス会議		

は、関東管内の事例。赤文字は各都道府県H30第1回道路メンテナンス会議資料より抜粋。

# 全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例

(平成28年度～平成30年度第1回道路メンテナンス会議資料等より抜粋)



関東地方整備局  
関東技術事務所

項目	No.	取り組み内容	実施主体	資料番号
1 技術力向上・点検促進の取り組み	15	道路メンテナンスの業務経験の浅い自治体職員、入省3年以内の直轄職員を対象に、道路メンテナンスの意義や取り組みについて、基礎的な内容の講習会『 <b>随路メンテナンス入門講座</b> 』を予定。	宮城県道路メンテナンス会議	
	16	<b>IV判定と診断された橋梁の現地研修会</b> を実施。近接目視点検の着眼点、変状の原因、診断時の留意点ならびに今後の措置等について、奈良県コンクリート診断士会より説明。	奈良県インフラ維持管理連絡協議会	資料②
	17	市職員を対象に、内外部の講師を招き <b>市独自で橋梁長寿命化に特化した勉強会</b> をH27より年に複数回開催。市職員の技術力向上と維持管理の重要性について意識の高揚を図っている。	千葉県道路メンテナンス会議 (君津市)	
	18	全国で実施されている地公体のインフラ維持管理の取り組みに関する講演会を市主催で実施することで、 <b>インフラメンテナンスに先進的な地公体との情報共有</b> を図っている。	神奈川県道路メンテナンス会議 (小田原市)	
	19	健全性の診断や修繕方針等に苦慮している相談事項について、他市町村も交えて検討(グループワーク)を行い検討結果を発表。質疑応答を経て国、県からコメントする <b>橋梁点検・診断ミーティング</b> を実施することで、より実践的な点検診断、修繕に関する技術力の向上を図った。	岡山県道路メンテナンス会議	
	20	県土木事務所毎に <b>メンテナンス技術に関するワーキング会議</b> を実施。点検や設計、工事等に関する地公体担当者間での技術相談や情報共有の場として活用している。	滋賀県道路メンテナンス会議	
	21	地公体が対応に苦慮している <b>吊り橋の維持管理に関する研修会</b> を実施。事例が少なく対応にバラツキが出ることが予想される施設の維持管理に関して共通認識が図れた。	和歌山県道路メンテナンス会議	
	22	橋梁保全に関する情報交換・発信のプラットフォームとして <b>北陸橋梁保全会議</b> を開催。国、県、市町村、高速道路会社、学校関係者、法人、一般企業の計988名(2日間計)が参加する基調講演、報文発表、技術展示、パネルディスカッションを実施することで、関係者の技術力向上と橋梁保全の実態について広報することができた。	北陸橋梁保全会議	
	23	東北地方における <b>産学官が協力してインフラ管理者、技術者、次世代の担い手を育成</b> する取り組み。e-ラーニングシステムの構築等を実践している。	東北インフラ・マネジメント プラットフォーム協議会	
体制	24	道路維持全般の係から分割し、橋梁に特化した <b>橋梁維持係を新設</b> して対応することで、橋梁維持管理に専念できるようになった。	埼玉県道路メンテナンス会議 (深谷市)	

は、関東管内の事例。赤文字は各都道府県H30第1回道路メンテナンス会議資料より抜粋。

# 全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例

(平成28年度～平成30年度第1回道路メンテナンス会議資料等より抜粋)



関東地方整備局  
関東技術事務所

項目	No.	取り組み内容	実施主体	資料番号
2 コスト削減・ 創意工夫	コスト削減 25	ロープアクセスによる橋梁点検に先立ち、 <b>ドローンで事前調査</b> することで、点検規模、工数を推定。見積りの精度がアップした。	NEXCO中日本	
	26	市職員の負担軽減、市民サービスの向上を目的に、 <b>相談窓口、巡回業務、道路・公園・水路の維持管理を包括的に業務委託</b> を試行した結果、改善の余地はあるが、民には概ね良好な評価。	新潟県道路メンテナンス会議 (三条市)	
	27	鋼橋塗替え <b>工事発注前に塗膜調査</b> を行い、有害物質の適切な防護・処分方法、保管場所の確保について検討することで、円滑な工事の進捗を図った。	新潟県道路メンテナンス会議 (柏崎市)	
	28	コンクリート診断士を資格要件とした、概ね10m未満のコンクリート橋の <b>橋梁点検業務を地元建設会社へ委託</b> することで、 <b>修繕工事を考慮した点検を実施</b> することができた。	新潟県道路メンテナンス会議 (糸魚川市)	資料③
	29	<b>ICTを活用した直営点検</b> の実施により、5年間で1億円弱のコスト削減見込み。	神奈川県道路メンテナンス会議 (小田原市)	
	30	長岡高専の開発した <b>簡便な橋梁点検システム (タブレット端末による橋梁点検)</b> による <b>小規模橋梁の点検</b> を地元建設会社に委託した社会実験。点検手法の有効性、建設会社への委託による点検者不足解消と災害対応力の強化について検証。	新潟県道路メンテナンス会議 (新潟市)	
	31	橋梁等点検時に維持作業員が同行し、発見したM判定については <b>維持作業で速やかに措置を実施</b> することで、損傷の進行が抑制され、長寿命化に寄与する。	北海道道路メンテナンス会議 (北海道開発局)	
	コスト削減 32	<b>橋梁アセットマネジメントシステム</b> を導入。もの(ITシステム)、しくみ(マニュアル)、ひと(人材育成)を効率的に運用することで、健全で安全なインフラの継続的な提供と、かかる費用の最小化・平準化を実現。	青森県道路メンテナンス会議 (青森県)	
	33	<b>迂回路に既存ストック (併行道路) をNEXCO 東日本や地元西和賀町と連携して活用</b> することで終日、夜間通行止めを実施。15ヶ月の工期短縮と約1億円の経費節減を実現。	岩手県道路メンテナンス会議 (岩手県)	
	創意工夫 34	事務局と地公体の <b>連絡や情報共有にファイル共有システムを活用</b> することで業務の効率化を図った。	埼玉県道路メンテナンス会議	
35	<b>ドローンによる橋梁点検を試行</b> 。効果や課題を抽出しておくことで、運用が可能となった場合の対応に備える。	青森県道路メンテナンス会議 (青森河川国道)		

□ は、関東管内の事例。赤文字は各都道府県H30第1回道路メンテナンス会議資料より抜粋。

# 全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例

(平成28年度～平成30年度第1回道路メンテナンス会議資料等より抜粋)



関東地方整備局  
関東技術事務所

項目	No.	取り組み内容	実施主体	資料番号
3 メン テナ ンス の 必 要 性 を 伝 え る 活 動	学習会	36 老朽化対策の重要性に関する実技を交えた学習会を2大学、1高専が合同で実施。 <b>学校側は学習会をシラバス(授業計画)として位置付けることを検討している。</b>	福井県道路メンテナンス会議	資料④
		37 将来の土木技術者に高度な実務体験をしてもらうため、 <b>橋梁点検学習会</b> を開催。メンテナンスの重要性に関する理解促進を図る。	茨城県、栃木県、群馬県 千葉県、山梨県、長野県 道路メンテナンス会議	
	広報	38 道路メンテナンス会議設立から節目となる5年目を迎え、道路施設の現状やこれまで実施してきた道路メンテナンスに関する取り組み等を情報発信(見える化)として <b>県版道路メンテナンス年報</b> 公表(平成30年9月下旬目標)	青森・岩手・宮城 秋田・山形・福島 道路メンテナンス会議	
		39 地図や観光情報を含めた、 <b>老朽化対策をわかりやすく解説したリーフレット等を毎年作成</b> 。手に取り易く持ち帰りも可能なため、より広範囲に情報拡散できた。	京都府道路メンテナンス会議	資料⑤
		40 <b>技術事務所が小学生向けの大規模なイベントに出展</b> 。見聞きするだけでなく、模型による実験や体験を通して道路メンテナンスの大切さを府県の枠を超えて実施した。	近畿地整管内道路メンテナンス会議 (近畿技術事務所)	
		41 地域から親しまれている橋梁等を用いた地域一体となったイベントや清掃活動を通じて <b>インフラ施設を長く大事に使うことの大切さを伝える</b> 。	東京国道事務所	
		42 <b>親子を対象に「メンテナンスを行うことにより丈夫で長持ちすることを覚えてもらい、「大事に使う」ことの大切さを発信していく</b> 」ことを目的として、橋梁の点検作業や補修作業を実際に「見て」「触れて」「学ぶ」ことのできる見学会を開催。	群馬県、埼玉県 道路メンテナンス会議	
		43 老朽化が進む <b>道路施設の現状と、老朽化対策の取り組みをPR</b> することを目的に、河川を散策しながら老朽化が進む道路施設の見学会を <b>一般の方を対象</b> に開催。見学者が親子等に限定されていない。	岩手県道路メンテナンス会議	
		44 <b>点検箇所、実施時期、点検内容を市民に周知</b> することで、老朽化対策の活動を積極的に市民に広報している事例。	京都府道路メンテナンス会議 (京都市)	
		45 橋のインフラメンテナンスに関する理解促進のための新たな広報活動として、 <b>北海道架け橋カード</b> を作成。カードを通じて、維持管理に関して留意していることや安全を保つために努めていることなどを発信している。	北海道道路メンテナンス会議	
協働		46 <b>道路の損傷箇所をスマホから通報できるアプリを市民に提供</b> 。市民との協働により道路施設の損傷状況を把握し重大災害を未然に防止。	相模原市	
		47 <インフラメンテナンス大賞・しゅうニャン橋守隊> 産学官民が協働して、「しゅうニャン橋守隊」として清掃や点検活動を実施。インフラメンテナンスの理解促進や裾野拡大を図った。	山口県道路メンテナンス会議 (周南市)	
		48 <b>牛根横断歩道橋点検隊</b> として、通学路にある歩道橋の点検、清掃、美化活動をすることで、道路施設を大切に使うことを学習してもらう活動。	鹿児島県道路メンテナンス会議 (大隅河川国道)	

□ は、関東管内の事例。赤字は各都道府県H30第1回道路メンテナンス会議資料より抜粋。

# 全国の道路メンテナンスに関する取組み事例

(平成28年度～平成30年度第1回道路メンテナンス会議資料等より抜粋)



項目	No.	取組み内容	実施主体	資料番号	
4 多 様 主 体 と の 連 携	連携	49	<b>埼玉県道路メンテナンス会議 地域支援チーム</b> の設立を決定。地公体アンケート結果に基づき、 <b>産学官が連携して</b> ①新技術マッチング、②診断支援、③補修支援、等、議論の場を設ける取り組み。	埼玉県道路メンテナンス会議	資料⑥
	50	<b>信州橋梁MAE要請運営協議会</b> の設立。産学官が連携して一般県民、建設企業社員、市町村・県職員、OBを対象に橋長10m未満の小規模橋梁の法定点検を実施できる技術者の養成し、技術職職員不足に悩む市町村を支援する計画。	長野県道路メンテナンス会議 (長野県)		
	51	大学と連携して実施した「コンピュータのシミュレーション技術を活用した橋梁の健全度評価」に関する講習会に国、県、市町村職員が参加。新技術に接する機会を増やしている。	山梨県道路メンテナンス会議		
	52	長岡技術科学大学、岐阜大学、舞鶴高専、山口大学、愛媛大学、長崎大学では、技術者のインフラメンテナンス技術のスキルアップのため、座学・演習・現場実習の集中的な履修を実施する <b>インフラメンテナンス技術者養成講座</b> を開設。官民間わず高度な技術力を持つ技術者を増やすことで、健全な老朽化対策の促進を図る。	長岡技術科学大学、岐阜大学 舞鶴高専、山口大学 愛媛大学、長崎大学		
	53	<b>ふくしまインフラメンテナンス技術者育成協議会</b> の設立。技術者不足という喫緊の課題を解消するため、 <b>産学官それぞれのノウハウを活かしてメンテナンス技術者を養成</b> する取り組みを図っている。	福島県道路メンテナンス会議		
	54	県及び技術センターは、県内地公体が管理する橋梁のメンテナンスサイクルの適切な運用と長寿命化修繕計画の効率化に資するため、 <b>産学官が連携</b> して県内の橋梁メンテナンスに関するデータを一元管理する <b>山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム (DBMY)</b> を開発。これまでの様式を使いながら、より高品質で使い易いシステムとしている。	山形県道路メンテナンス会議 (山形県)		
	55	<b>山上市と東北大学 MCとの共同研究</b> 。平成26～28年度にかけて、 <b>ICT (タブレット端末)の活用と専門家の技術指導</b> を受け、職員が橋梁点検を行ううえで懸念される技術力不足の補完と点検の効率化を実証した。	山形県道路メンテナンス会議 (山上市)		
	56	<b>市民や技術職OBがメンテナンスをサポート</b> 。市民や技術職OBのボランティアによるインフラ異常に関する速やかな情報収集と民間を含めた技術職OBを雇用することで、点検促進と技術の継承を図る取り組み。	長崎県、岐阜県、兵庫県、 掛川市、島田市		
	57	<b>近隣住民による 橋梁点検サポーター事業</b> 。橋梁の通常点検を土木の有資格者や県市町村の技術職員経験者に実施してもらう制度で職員の負担軽減を図る取り組み。	福島県道路メンテナンス会議 (福島県)		
58	<b>土木研究所と富山市が締結した 橋梁の維持管理に関する研究協力協定</b> 。老朽化により撤去した橋梁の主桁を土研に搬入。破壊試験を行いモニタリング・データとの検証を実施。積極的な連携を図っている。	富山県道路メンテナンス会議 (富山市)			
5 そ の 他	情報提供	59	(発刊案内) <b>中小規模橋梁の維持管理ハンドブック</b> 市町村管理橋梁の多くを占める中小規模橋梁の直営点検を想定して、市町村にアンケート調査を実施したうえで内容を検討して作成された技術資料の紹介。		

■ は、関東管内の事例。赤文字は各都道府県H30第1回道路メンテナンス会議資料より抜粋。

4. 平成30年度活動計画(案) (アドバイザーチームの設置)

H30

資料①

(6)技術支援(青森県)

道路施設の点検や保全関係の技術的課題に係る自治体からの疑問や相談に対応するアドバイザーチームとして、『**県内道路メンテナンス支援団**』を設置。直接現地や役場に出向いて、市町村への技術的助言・支援を行っていきます。

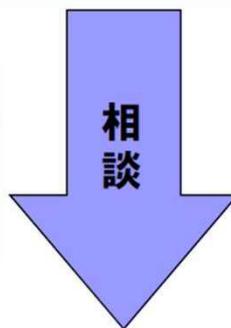
市町村管理の道路施設(橋梁、トンネル、附属物、舗装、土工等)



支援目的・内容

定期点検促進

予防保全、修繕に係る技術的課題の解決



県内道路メンテナンス支援団

- 例えば、
- 点検要領の具体的説明会をしてほしい
  - 遠方の研修には全員参加できない。でも点検の仕方を指導してほしい
  - 補修の優先順位を付けるための知恵を貸してほしい
  - 職員の勉強会を役場で開催したい
  - 劣化状況を見に来てアドバイスしてほしい などなど



H30第1回青森県  
道路メンテナンス会議資料より  
青森河川国道事務所 道路管理第二課  
電話番号 017-734-4574

※岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県でも同様の「道路メンテナンス支援団」を設置。

## IV判定橋梁の現地研修会に参加

道路管理課

- 平成30年2月14日（水）に奈良県コンクリート診断士会の主催で五條市の協力のもと、現地研修会が開催されました。
- 奈良県コンクリート診断士会、県内12市町村、五條土木事務所職員、道路管理課の職員を含め、総勢53名の参加がありました。
- 平成27年度の定期点検※1でIV判定※2と診断された下田橋（五條市管理橋梁）について、近接目視点検の着眼点、変状の原因、診断時の留意点ならびに今後の措置等について、奈良県コンクリート診断士会よりご説明いただきました。

※1：H26.31に道路法施行規則が一部改正され、橋、トンネル、その他大型構造物の近接目視点検が義務化。  
※2：構造物の部材単位及び施設毎の健全性をI～IVの区分で判定。IV判定は、緊急に対策を行う必要がある状態をいう。



現地研修



五條市竹原課長補佐より下田橋の概要説明



熱心に話を聞く参加者



ディスカッション及び講評

### 研修を終えて

- ✓ 奈良県コンクリート診断士会は、地域貢献や技術力向上を目的に3年前に設立されました。今回の研修も、会員はもとより、奈良県及び市町村職員の技術力向上に繋がればということで開催に至りました。
- ✓ 道路管理課としても、今後も研修等を通して、県土木職員及び市町村職員の技術力向上を目指したいと思います。

H30第1回奈良県  
インフラ維持管理連絡協議会資料より  
奈良国道事務所 管理第二課  
TEL 0742-33-1394  
奈良県 道路管理課  
TEL 0742-27-7502

- 橋梁点検について、建設会社へ委託
- コンクリート診断士の資格取得の支援

H30

資料③



### 取り組み内容

○コンクリート診断士の資格を有する者を主任技術者の資格要件とし、点検業務を委託している。

○点検対象橋梁は、構造が簡易で損傷が比較的少なく、延長が短い(概ね10m未満)のコンクリート橋としている。

○コンクリート診断士の資格取得に向けた受検費用の助成制度。

### 取り組みの効果、課題、今後の予定など

- 地理情報や現場状況に詳しく、地元関係者との連絡調整等もスムーズである。
- 修繕工事に直結した観点で点検を実施できる。
- 今後も資格取得を支援し、点検対象橋梁の範囲(損傷具合、橋梁延長等)を拡大したい。

H30第1回新潟県  
道路メンテナンス会議資料より  
糸魚川市 建設課  
TEL025-552-1511

## 36.全国の道路メンテナンスに関する取組み事例 福井県道路メンテナンス会議



関東地方整備局  
関東技術事務所

H30

資料④

- 福井県道路メンテナンス会議は学生を対象に現場学習会を実施。
- 福井大学、福井工業大学、福井高専の学生約80名を集め、老朽化対策の重要性について実技を交えて学習。
- H28年度に続く2回目の開催。好評であったことから学校側は次年度のシラバス（授業計画）として位置づけることを検討。

### H30.1.12開催 プログラム

- 道路の老朽化対策
- 福井県のコンクリート構造物の劣化
- 室内実習
- 補修・補強事例
- 次世代インフラ用ロボット

非破壊で傷を探す  
「浸透探傷試験」

劣化メカニズムの講義

非破壊で傷を探す「電  
磁波レーダ探査」



H30第1回福井県  
道路メンテナンス会議資料より  
福井河川国道事務所 道路管理課  
TEL(075) 0776-35-2661(代)

# 39-1.全国の道路メンテナンスに関する取り組み事例 京都府道路メンテナンス会議

H30

資料⑤

- 京都府道路メンテナンス会議は、毎年度リーフレット等を作成し、老朽化対策について積極的な一般向け広報を展開。

メンテナンス・セカンドステージをわかりやすく解説！！

裏面に地図や観光情報を入れることで読んでいても楽しいものに！

H30第1回近畿地方  
道路メンテナンス会議資料より  
京都国道事務所 管理第二課  
TELTEL(075)351-3300(代)

### 予防保全で 早期発見・早期対策!

予防保全により将来の維持管理費を削減  
予防保全を前提としたメンテナンスの計画的な実施

予防保全  
定期的な点検・修理を行うことで、重大な被害を防ぎ、寿命を延ばす。

### より確実に、より安全に 橋を点検!

新技術で点検コストを削減!

#### 点検の効率化

#### 非破壊検査システム

### 過積載を 「ゼロ」に!

過積載撲滅に向けた取組の強化  
過積載車両が道路橋を傷めます!

通常のトラックは 重量10t  
制限10t  
過積載による最大許容重 約4,000倍  
制限10t  
過積載トラックが走行

#### 過積載車両撲滅に向けた取組み

新技術について  
も解説!!

#### ITモニタリングで 効果確認など!

#### インフラ長寿命化で 安心・安全な暮らし

#### このままでは 大変!

#### 京都府内に増え続ける 50歳以上の橋

#### 橋の健康状態を しっかりチェック!

#### 未来に向けて 一つになって取り組む

京都府道路メンテナンス会議

参-2

11

22

## ワーキンググループ(案)

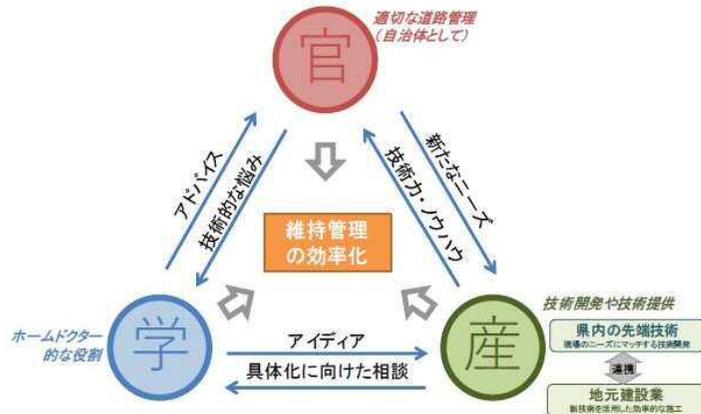
H30

資料⑥

- 自治体アンケート等から把握した、複数自治体が共有する悩み・課題・ニーズを踏まえ、①新技術マッチング、②診断支援、③補修支援に関するWGを先行して立ち上げ

### 埼玉県道路メンテナンス会議 地域支援チーム

**運営委員会**  
大宮国道事務所  
埼玉県県土整備部  
さいたま市建設局土木部



#### ①新技術マッチングWG

新技術の社会実装による橋梁点検の効率化を目指した議論を実施  
(例) ポールカメラなどの近接目視の補完・充実  
ドローン、レーザー打音などの高度化技術  
⇒ 今年度下期から具体的な活動開始

#### ②診断支援WG

自治体職員の診断精度の向上を図る支援のあり方について議論を実施  
(例) 高度な技術相談に対する支援体制  
事務系職員などに向けた支援メニュー  
⇒ 今年度下期から具体的な活動開始

#### ③補修支援WG

今後本格化する補修の課題に対する支援のあり方について議論を実施  
(例) 補修に関する多様な悩み、課題  
国・県等に期待する支援メニュー  
⇒ 今後ニーズを把握し支援を検討

H30第1回埼玉県  
道路メンテナンス会議資料より  
大宮国道事務所 管理第二課  
TEL048-669-1208